

公益財団法人ロツテ財団
2016 年度研究助成事業
募 集 要 項

2015 年 4 月
公益財団法人ロツテ財団

【目次】

はじめに.....	2
I. 助成対象分野.....	3
II. 各助成事業の募集概要.....	4
【研究者育成助成〈ロッセ重光学術賞〉】	
〔1〕本助成の趣旨.....	4
〔2〕本助成の特徴.....	4
〔3〕助成金額・件数.....	4
〔4〕応募締め切り.....	5
〔5〕応募資格.....	5
〔6〕称号付与.....	6
〔7〕選考方法.....	6
〔8〕助成期間.....	6
〔9〕助成金の支払いおよび用途.....	6
〔10〕育成支援教員の役割.....	7
【奨励研究助成】	
〔1〕本助成の趣旨.....	4
〔2〕本助成の特徴.....	4
〔3〕助成金額・件数.....	4
〔4〕応募締め切り.....	5
〔5〕応募資格.....	5
〔6〕選考方法.....	6
〔7〕助成期間.....	6
〔8〕助成金の用途.....	6
III. 助成決定後の遵守事項.....	8
IV. 応募方法.....	8
V. 結果通知等.....	9
VI. 助成金の贈呈.....	9
VII. 個人情報の取扱いに関する事項.....	9
VIII. 申請書類送付および申請に関する問い合わせ先.....	10

はじめに

「食と健康」——人類史上、洋の東西を問わず、時空を越えて今に伝わるこの命題が、現在、21世紀最大の社会的関心事の一つとして再浮上しており、学術的にも人間科学の最重点課題の一つに挙げられるに至っています。一般社会も学界も、若き気鋭の研究者がこのテーマの推進活動に参入することに強い期待を寄せています。

一方、公益財団法人ロッテ財団は、財団を取り巻く社会環境の変化やそのニーズの多様化・高度化に伴い、財団のあるべき姿とは何かを模索して参りました。そして「食と健康」に対する社会の関心が高まる中、食品産業の一翼を担うロッテグループの社会貢献の一つとして、時代の要請を正面から受け止め、自然科学から人文・社会科学までの広い分野での諸課題の克服を通して、健康で真に豊かな社会の構築をめざす新たな歩みを開始する必要性に思い至りました。

本財団は、2013年4月から「研究者育成助成〈ロッテ重光学術賞〉」と「奨励研究助成」という2つの大きな柱で助成事業を展開しています。具体的には、将来、国際的に活躍する可能性を秘めた優秀で志の高い若手研究者とその研究を対象に、目新しいユニークな仕組みを取り入れた助成・支援を行っています。

ぜひ本趣旨にご賛同くださり、積極的にご応募されることを切望します。

I. 助成対象分野

研究助成事業では、次に挙げる分野を助成対象とします。

- ① 食料の生産・加工・流通・保存・備蓄・廃棄に関わる技術
- ② 食品のマーケティング
- ③ 食文化
- ④ 嗜好性
- ⑤ 栄養
- ⑥ 食品安全・衛生
- ⑦ 上記①から⑥の複合領域

以下に具体的な例を示します。

- ①-1 健康の増進を目指す農・水・畜産食品開発の基盤となる新技術の研究
- ①-2 栄養性・嗜好性を損なわない新しい食品流通・保護・加工法の開発研究
- ①-3 副産物の活用に関する新技術の研究
- ②-1 食と健康を志向したマーケティングないしビジネスモデルの研究
- ②-2 食品の流通の研究
- ②-3 食と健康に関わる消費者行動の研究
- ③-1 菓子を含めた嗜好食品に関する食文化・伝統的技術を検証する研究
- ③-2 食と健康の消費文化変容に関する研究
- ③-3 食と健康に関する規制の現状と望ましい政策提言
- ④-1 味覚・嗅覚の末梢・中枢における感知・認知機構の解析研究
- ④-2 咀嚼・嚥下に関わる食品物性の解析・応用研究
- ④-3 嗜好と栄養の連動性に関する解析
- ⑤-1 栄養素・機能性食品成分の疾病予防効果を事前予知する研究
- ⑤-2 加齢と栄養の関わりや運動と栄養の関わりを検証する研究
- ⑤-3 消化管・膵臓・脳などに発現する味覚受容体の存在意義の解析研究
- ⑥-1 食の安全と衛生の評価法の開発研究
- ⑥-2 食品成分の摂取不足のリスクと摂取過剰のリスクに関する研究
- ⑥-3 食の安全・安心の社会的関心の高まりの変遷に関する調査研究

上記の例示並びにそれに類するテーマによる申請を歓迎します。

II. 各助成事業の募集概要

研究者育成助成<ロッセ重光学術賞>

[1] 本助成の趣旨

本制度は、「食と健康」の分野において、優れた若手研究者がわが国トップクラスの研究者として成長することを願い、それにふさわしい支援を行おうとするものです。

本制度は、日本国内の民間助成では新しい形態の研究者育成制度です。助成対象者には、育成支援教員のもとに安定した研究の場を確保しつつ、研究に必要な資金を長期にわたり助成します。

[2] 本助成の特徴

- (1) 助成対象者へ生活費相当額の支援を行い、生活基盤の安定を図ります。
- (2) 助成対象者とその育成支援の役割を担う教員(以下、「育成支援教員」)をペアで助成し、助成対象者に対する組織内での研究体制をサポートします。(「[10] 育成支援教員の役割」参照)
- (3) 助成対象者には、大学・短期大学・高等専門学校および公的研究機関(以下、「所属機関」とします)より有期のポストが付与されるという条件の下、組織内での安定した研究の場の確保を図ります。(「[6] 称号付与」参照)
- (4) 助成対象者および育成支援教員に対し、5年間という長期にわたる助成を行います。

[3] 助成金額・件数

(1) 助成金額

1件あたりの年間助成金額 1,500 万円

助成期間 5 年間

1件あたりの助成金の総額 7,500 万円

(2) 年間助成件数

2 件程度

奨励研究助成

[1] 本助成の趣旨

本制度は、将来、国際的に活躍する可能性を秘めた、優秀で志の高い若手研究者を対象とした助成制度です。自然科学から人文・社会科学にわたる「食と健康」の分野において、申請者の年齢分布や研究形態の多様性も考慮しつつ、独創的・先端的な研究に専念する優れた若手研究者を助成します。

[2] 本助成の特徴

- (1) 助成対象者には、1件あたり最大 300 万円を助成します。
- (2) 自然科学、人文・社会科学の広域科学分野からの応募が可能です。
- (3) 研究者の環境にあわせて研究計画を立てられるよう、研究期間が1年～3年まで選択可能です。

[3] 助成金額・件数

(1) 1件あたりの助成金額(上限) 300 万円

(2) 年間助成件数 10 件程度

(3) 年間助成総額 約 3,000 万円

[4]応募締め切り

- (1) Web申請…2015年7月17日(金) 24:00まで
- (2) 申請書の郵送…7月21日(火)12:00までに財団必着のこと
* (1) (2)ともにそろった段階で正式受理とします。

[5]応募資格

将来、大学および公的研究機関において、「食と健康」に関する広域科学分野での研究で中核となることが期待される若手研究者のうち、2015年4月1日時点で以下の要件に該当する方が応募できます。

- (1) 30歳以上40歳以下の方とします。ただし、国籍は問いません。
- (2) 申請時点での所属先は国内・海外を問いませんが、助成期間中の所属先は国内のみとします。
- (3) 助成期間中に所属予定先の機関長(学部長・研究科長・研究所長等)の承認および育成支援教員の推薦を得て、育成支援教員の下に研究の場を確保し、独自のテーマで主体性を保ちつつ研究を遂行できる方とします。
- (4) 博士号取得者であること。かつ、取得後数年の研究実績を有する、または同等の能力を有する方とします。
- (5) テニユア(終身雇用)として勤務していない方とします。
なお、現在、所属機関から給与を受けている方は、助成開始後の二重給与を認めませんのでご注意ください。
- (6) 他財団等からの助成については、研究課題名の重複や、エフォート管理上、研究費の過度の集中が認められた場合は採択しません。
- (7) 当財団の「奨励研究助成」と重複して応募することはできません。
- (8) 2015年11月12日(木)の面接審査および2016年2月18日(木)の贈呈式に、申請者本人および育成支援教員本人が必ず出席できる方とします。

[4]応募締め切り

- (1) Web申請…2015年6月26日(金) 24:00まで
- (2) 申請書の郵送…6月29日(月)12:00までに財団必着のこと
* (1) (2)ともにそろった段階で正式受理とします。

[5]応募資格

「食と健康」に関する広域科学分野での独創的・先端的な研究を行う若手研究者のうち、2015年4月1日時点で以下の要件に該当する方が応募できます。

- (1) 40歳以下の方とします。ただし、国籍は問いません。
- (2) 国内の大学・短期大学・高等専門学校および公的研究機関(以下、「所属機関」とします)に勤務する研究者の方で、博士号取得者または博士課程単位取得退学者の方とします。
- (3) 助成申請にあたり、応募は本人が行いますが、所属機関長(学部長・研究科長・研究所長等)の承認を得られる方とします。
- (4) 原則として個人研究が対象ですが、申請者が研究の代表者であり、かつ申請課題を遂行する上で必要である場合に限り、共同研究を例外的に認めます。
- (5) 一度採択された方は、助成初年度から数えて3年間「奨励研究助成」の再申請を行うことはできません。
- (6) 他財団等からの助成については、研究課題名の重複や、エフォート管理上研究費の過度の集中が認められた場合は、採択しません。
- (7) 当財団の「研究者育成助成(ロッテ重光学術賞)」と重複して応募することはできません。
- (8) 2016年2月18日(木)の贈呈式に申請者本人が必ず出席できる方とします。

[6] 称号付与

助成対象者が助成金の支給を受けるには、大学の施設を利用して有意義な研究活動を行うことができるよう、助成開始時(2016年4月1日)までに、特任助教などの称号を所属機関より付与されることを条件とします。

[7] 選考方法

2015年10月8日(木)開催予定の研究助成事業選考委員会にて一次選考を行います。

一次選考結果の合否については、同年10月15日(木)までに連絡を差し上げ、一次通過者は11月12日(木)の最終選考会にて、申請者本人と育成支援教員と共に面接を受けていただきます。国内外にかかわらず往復交通費(実費)を支給する他、国内宿泊費(上限15,000円)を支給します。日程の変更はできませんのでご了承ください。

助成対象者は、2015年11月19日(金)開催予定の理事会において決定されます。

なお、選考の過程において、当財団は選考に利害関係のない有識者に申請書を送って評価意見を求めることがあります。

[8] 助成期間

原則、2016年4月から2021年3月までの5年間とします。

[9] 助成金の支払いおよび用途

(1) 助成金は、助成対象者が所属することとなる機関に対して支払います。内訳例は次のとおりです。

(例) ・助成対象者の生活費相当額	700万円(変動項目)※1
・助成対象者の研究費	350万円(変動項目)
・育成支援教員の研究費	300万円(固定項目)※2
・所属機関の管理費	150万円(固定項目)
合計金額	1,500万円

[6] 選考方法

2015年10月8日(木)開催予定の研究助成事業選考委員会にて選考を行い、同月20日(火)開催予定の理事会において助成対象者が決定されます。

なお、選考の過程において、当財団は選考に利害関係のない有識者に申請書を送って評価意見を求めることがあります。

[7] 助成期間

2016年4月から1年間です。ただし、研究期間は申請時に選択していただき、最長3年間まで可能とします。助成金は、研究期間にかかわらず、300万円を上限として助成開始時に支払われます。

[8] 助成金の用途

助成金の用途は、助成対象者の研究に直接必要な経費とします(設備備品類、消耗品費、旅費等)。ただし、以下の費用は対象外とします。

- (1) 建物等の施設に関する経費(直接経費により購入した物品を導入することにより必要となる軽微な据付等のための経費を除く)
- (2) 助成期間中に発生した事故・災害の処理のための経費

※1 助成対象者本人の生活費相当額の決定にあたっては、財団と所属機関が協議し、助成対象者の職位・年齢等に対応するとみられる標準給与を参考に決定します。

※2 育成支援教員に対しては、助成対象者の研究上の独自性を最大限尊重し、研究に専念できる環境が提供されることを期待して、助成金 1,500 万円の中から研究費として年間 300 万円を 5 年間にわたって支給します。

なお、いずれの研究費についても年次ごとの会計報告が必要です。

(2) 研究費の使途は、助成対象者については研究に直接必要な経費とします(設備備品類、消耗品費、旅費等)。一方、育成支援教員については、教員自身の判断で、助成対象者の環境整備を含む育成支援費、およびそれに関連するサポートを含む育成支援教員の研究費とします。

ただし、以下の費用は対象外とします。

- ① 建物等の施設に関する経費(直接経費により購入した物品を導入することにより必要となる軽微な据付等のための経費を除く)
- ② 助成期間中に発生した事故・災害の処理のための経費
- ③ 助成対象者が所属する組織のオーバーヘッド
- ④ 助成対象者および育成支援教員本人への人件費・謝金
- ⑤ 間接経費を使用することが適当なもの

[10] 育成支援教員の役割

- (1) 助成対象者の研究の独自性を最大限尊重していただきます。
- (2) その研究室に助成対象者を受け入れ、研究活動ができるスペースの確保等、研究に専念できる環境づくりに協力していただきます。
- (3) 助成対象者が研究機器等を使用することを可能な限り認めるなど、研究の推進に支障のないよう心がけていただきます。
- (4) 助成対象者が国際的にトップレベルの研究者として成長することを願い、それに相応しい支援をする役割があります。

- (3) 助成対象者が所属する組織のオーバーヘッド
- (4) 助成対象者および共同研究者本人への人件費・謝金
- (5) 間接経費を使用することが適当であるもの

Ⅲ. 助成決定後の遵守事項

助成決定後、助成対象者には、主に以下の事項を遵守していただきます。

- (1) 年次研究計画書および年次予算書に基づき、研究活動を行っていただきます。
- (2) 年次報告と最終報告(研究成果報告・会計報告)を、それぞれの期間終了後 1 か月以内に、財団事務局まで提出していただきます。
- (3) 当財団の助成研究の成果については、学会等での積極的な論文発表や口頭発表をお願いします。研究成果を発表する場合は、当財団の助成を受けたことを記載してください。
「研究者育成助成〈ロッテ重光学術賞〉」の助成対象者の方は、研究成果の発表の際には、「**〈ロッテ重光学術賞〉**(英文表記:**Lotte Shigemitsu Prize**)受賞」と記載してください。
「奨励研究助成」の助成対象者の方は、「**ロッテ財団 奨励研究助成**(英文表記:**Lotte Research Promotion Grant**)受賞」と記載してください。
また、口頭発表の場合は予稿のコピー、論文発表の場合は別刷りを財団事務局宛に提出していただきます。なお、研究成果に基づいた知的財産権は、所属機関の規程により処理してください。
- (4) 助成期間中に、所属機関の異動や職位の変更(テニユア職への移行を含む)、連絡先の変更、研究計画や支出計画の変更等が発生した場合には、すみやかに財団までご連絡ください。
特に、「研究者育成助成〈ロッテ重光学術賞〉」においては、助成対象者がテニユア職に就いた時点で助成を終了させていただきます。

Ⅳ. 応募方法

1. Web申請

上述のWeb申請締め切り日までに、当財団ウェブサイトの「Web申請」ページより申請を行ってください。

2. 申請書類

下記(1)～(2)の書類を「WEB 申請」ページからアップロードしてください。

また、下記(1)～(3)を各1部、上述の郵送応募締め切り日までに財団まで郵送してください。

- (1) 申請書類 *当財団ウェブサイトよりダウンロードしたもの
「研究者育成助成」:【A1】【A2】【A3】
「奨励研究助成」: 【B1】【B2】
- (2) 論文 *原著論文のうち、本申請に関連のある主要論文
「研究者育成助成」 :5報(【A1】[8]「業績リスト」中、①～⑤まで優先順位をつけたもの)
「奨励研究助成」 :2報(【B1】[10]「業績リスト」中、①、②と優先順位をつけたもの)
- (3) 返信用封筒:A4の書類が三つ折で入る長形 3 号の大きさのもの
(合否の結果連絡に使用するため、宛先に郵便番号、住所、申請者本人の氏名を正確に記入し、82 円切手を貼付のうえ同封してください。なお、氏名には「様」とつけてください。)

3. 申請書類記入・郵送上の留意点

- (1) 申請書類は日本語で記入してください。
- (2) 申請書類の記入方法については、必ず「記入要領」の注意事項をお読みください。
- (3) 申請書、論文を郵送する際は、すべて A4 判片面コピー(白黒)とし、クリップで留めてください(ホッチキス不可)。
- (4) 郵送は、配達が可能である方法(特定記録、小包、簡易書留、宅配便、レターパックプラス等)により募集期間内に到着するように、余裕を持って発送してください。(封筒のおもて面には「研究者育成助成申請書類在中」もしくは「奨励研究助成申請書類在中」と朱書きしてください。)

なお、提出いただいた書類はいかなる場合でも返却いたしません。

V. 結果通知等

「研究者育成助成(ロッテ重光学術賞)」については、一次選考結果を10月15日(木)まで、最終合否結果を11月26日(木)までにメールまたは文書で通知します。

「奨励研究助成」については、最終合否結果を10月27日(火)までにメールまたは文書で通知します。

なお、採否の理由についての照会には回答いたしかねます。

VI. 助成金の贈呈

1. 贈呈式

2016年2月18日(木)に実施される贈呈式には、必ず助成対象者本人(「研究者育成助成(ロッテ重光学術賞)」の場合は育成支援教員本人も)に出席していただきます。(代理出席はご遠慮いただいております。欠席の場合は、採択を取り消すこともあります)

2. 助成金振込時期・振込先

2016年3月末までに、助成対象者が4月以降に所属する機関の指定口座に振込みます。(助成対象者の個人口座への振込はできません。)

VII. 個人情報の取扱いに関する事項

1. 当財団の研究助成への応募にかかわる全ての個人情報は、選考に関する手続き(審査と当財団からの連絡)のみに使用します。
2. 助成決定後、当財団に「個人情報の取扱いに関する同意書」を提出し、併せて主として当財団の刊行物とホームページ等に以下(1)～(8)の情報を公開することに同意していただきます。
 - (1) 所属機関等の承認者氏名、所属機関名、職位
 - (2) 助成対象者・育成支援教員の氏名、所属機関名、職位、肖像写真

- (3) 研究課題名
- (4) 申請研究の内容
- (5) 研究期間
- (6) 助成金額
- (7) 研究成果報告
- (8) 財団主催の行事に参加した際、財団で撮影した写真

VIII. 申請書類郵送および申請に関する問い合わせ先

1. 書類郵送先

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-20-1

公益財団法人ロッテ財団 研究助成担当 宛 (TEL 03-5388-5564)

2. 問い合わせ先

メールアドレス lotte_zaidan@lotte.co.jp

電話でのお問い合わせは受け付けていません。必ずメールでお願いします。